

市長	副市長	部長	課長	補佐	係長	関係者

会議記録兼報告書

議 題	第 65 回伊那まつり 第 3 回事務局会議
日 時	令和 4 年 10 月 21 日（金）午後 6 時から午後 7 時 15 分まで
場 所	伊那市役所 302 会議室
出 席 者	<p>実行委員長 中山昭、事務局次長 宮澤伸英 市民おどり委員会 山岸洋子 おまつり広場委員会 工藤陽介・網野俊輔 花火委員会 伊那商工会議所 北原光 市事務局 商工振興課 林裕二・村田和也、生活環境課 藤井聡生・山口雄樹 危機管理課 宮下誠 観光課 清水俊一郎・唐木玲・中谷剛・小牧さとみ <欠席>おまつり広場委員会（スタジオR 浦野創一郎・ブーケ 宮坂和世） 遊 ing ビレッジ委員会（城取和広・伊那食品工業㈱ 白鳥翔）</p>
打 合 せ 内 容	
<p>1 開会</p> <p>2 挨拶（中山実行委員長）</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 事務局長等の互選について</p> <p>○事務局から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那まつりは組織規程等なく、その都度委員会を構成し、互選で役職をお願いしてきた経過がある。 ・所属団体からの推薦ということではなく、伊那まつりに思いを持ってくださる方でどなたか担ってくださるといい。 ・この会議で事務局長交代を提案いただいた経過もあるので、みなさんの中から案をいただきたい。 ・任期が長期間に及ぶことは負担も大きいですが、3年（まつり3回）程度は継続する形で関わっていただきたい。 ・事務局次長の1名増について、商工会議所事務局に選出依頼をしたところ、今回の会議時点では選出できない旨の連絡があったので申し添える。 <p>○委員から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那商工会議所青年部の現部長である工藤陽介さんを推薦したい。 ・伊那まつりに対して思いもあり、今年のみなまつりについても熱い思いで実行して下さった。 ・また、青年会議所や商工会議所の親会、行政とのよき架け橋になるという事務局長の役割にも理解 	

をしている。

→事務局会議では異論なく、事務局長を工藤陽介さんをお願いすることとした。

→事務局次長の1名増については、引き続き商工会議所に依頼していく。

(2) 前回会議のふりかえりについて

(議事録により、会議内容の振り返りを行った。)

(3) 第66回伊那まっりの開催について

○委員会からの報告

(総務広報委員会)

- ・伊那商工会議所は従来から二日間開催を主張している。市民の声を聴くアンケート調査を行って決めるべき。
- ・来年もまだコロナのリスクが払しょくできないと思うので、全市挙げての市民おどりはリスクが大きいように感じる。
- ・通り町でどのような踊りイベントをするかによって周辺イベントの持ち方も変わってくると思うので、早い段階で構成を決定する必要があると思う。
- ・市の方針に賛成であり、これまでの歴史を踏まえた2つの踊りを大切に継続していただきたいと願っている。
- ・市民おどりを締めくくる花火についても大変良いアイデアだと思う。
- ・地域団体等に市がどのくらいバックアップできるかが課題だと思うので、事前の入念な計画が必要だと思う。
- ・負担を考えると、いろいろを減らすことには反対。簡単にできるものに価値はない。
- ・最初からコロナが広がったときにどうするか代替案を考えておくべき。
- ・やる気のある人、負担もやりがいと考える人、今までと変わらない祭りの形を求める人にも目を向けるべき。

(市民おどり委員会)

- ・社会が変わり、人の考え方や市の考え方も変化してきていると感じる。検討された方向でよいのではないか。
- ・お金を掛けずに市民が楽しめる方向がいい。
- ・市民おどりについては、“復活”再構築の場として、様々な形で、様々な思いで参加できる場にしていきたい。
- ・つながった人たちと、自由に喜びを表現できる場として、未来につながる橋渡しとして、下手でもいい、最後まで踊れなくてもこの場があることを楽しんでもらいたい。
- ・まずは、無理をせず、できることを大切にして、スタートできることを願う。
- ・基本的には、市の方針に賛成です。
- ・伊那まつりを縮小したりとか、廃止すれば、手間もコストも掛からないが、その結果失うものは多いのではないか。一度消えてしまった伝統文化を再興することの困難さを考えれば慎重すぎることはない。

(おまつり広場委員会)

- ・状況と時代の流れで仕方がないのかなと感じる。
- ・みなまつりは、応急的に楽しんでもらえる場を作ろうと、担当は大変苦勞していた。スピード感をもってやらざるを得なかったが、日程的に余裕があればさらにいろんな団体を巻き込むことができたかもしれない。
- ・商工会議所と青年会議所が中心になるのが必然だろう。各団体の役員の任期や行政の人事異動があっても、ちゃんと引き継いでいける中継ぎ役になっていかないといけない。

(花火委員会)

- ・商工会議所としては、2日間開催でお願いしたい。盛大に市民が喜ぶまつりでありたい。

(交通委員会)

- ・警備代を令和元年の2倍くらい見込んでいただきたい。
- ・様々な市のまつりの警備に関わった経験として、まつりは部活のように熱い思いを持って取り組むべきで、そんな伊那市の姿を見せるのが伊那まつりだと思う。

(保安救護委員会)

- ・保安救護は、決まった形に対して、安全に実行できるような役割と考えている。

○意見交換

- ・2日開催に戻せる状況でないことは、多くの人が理解しているのではないか。3年くらいの道筋を立ることと、どこまで変化をもってやるのか考えていけばいい。
- ・市に200人近い動員を頼むのは酷だと思う。長野市や松本市の場合は、警備にどれくらいの費用や人員を割いているのか。

→次回までに事務局で確認する。

- ・今年のみなまつりは、商工会議所青年部でも精一杯の規模だった。3年間くらい「市民おどり+みなまつり」の規模で様子見していくということではないか。
- ・今年のみなまつりの評価が高かったのは、最小の経費で最大の効果を生み出していたこと。祭りの盛大さを求めるだけでなく、掛ける費用や人員を考慮したまつりの運営が望ましい。
- ・これからを見据えて、できることをできるサイズでと音頭を取って、継続していくことがいいのではないか。
- ・市民の意見ということもあるが、まつりがどうあるべきかについては主観でしかなく、意見を聞いたとしてもまとまる話ではない。市が、市長が、こうやろうと提案するということだと思う。
- ・「市民総参加」を、市民が受け身でお客様として参加することではなく、市民同士がともに場を創って楽しみを分かち合うような参加を目指したいと考えている。そのことについても、この会議の場で意見交換したい。
- ・何を目的にやっていくのか、そのための手段は何かを示していく。
- ・アンケートには様々な側面があり、なくなったことを復活するにあたって、言い出しにくい雰囲気もある中で、実際に開催したら人が集まるという現実もある。そのギャップをよく認識していくことが大事。

- ・ 3年後、どこにゴールを持っていくのか、どういう形を作るのか、をはっきりしたうえで 66 回の日程が決まるというイメージ。
- ・ 実際にやってみて分かること、見えてくる世界がある。どんな形でもやってみること。
- ・ 変化しようとする場面に立ち会えて嬉しい。この会議のチーム力や意見の暖かさがいい。

(2) その他

- ・ 次回、「市民総参加」について定義づけしたい。考えをまとめる中で、66 回伊那まつりの方針を創っていきたい。

4 その他

(1) 今後の日程について

令和 4 年 11 月 14 日（月）午後 6 時から 伊那市役所 1 階多目的ホール

○取材対応

伊那ケーブルテレビジョン 小林記者、信濃毎日新聞 木下記者